

心臓手術時のトランサミン®注大量投与症例における重篤な痙攣出現について

【当安全性情報発信の経緯】

トランサミン注（一般名：トラネキサム酸）製造メーカーの第一三共株式会社は、心臓手術時のトランサミン投与における報告をされました。体外循環中に人工心肺回路に投与する施設も散見されることから、今回安全性情報として発信します。トランサミンを使用している施設では、医師等と情報を共有のうえ使用方法についてご確認下さい。

トランサミン注のおもな効用

- 全身性線溶亢進が関与すると考えられる出血傾向
（白血病、再生不良性貧血、紫斑病等、及び手術中・術後の異常出血）
- 局所線溶亢進が関与すると考えられる異常出血
（肺出血、鼻出血、性器出血、腎出血、前立腺手術中・術後の異常出血）



【メーカーからの報告内容】

心臓手術時の止血を目的としてトランサミン注の大量投与が行われる際に、因果関係は明確でないものの、重篤な痙攣の発生が10例報告されております。また海外においても、心臓手術後のけいれん発作と高用量のトラネキサム酸投与との関連を示唆する文献が3件報告されております。



【留意点】

メーカーの報告では、トランサミン注投与量が8～10gとなる症例や高齢者あるいは腎不全のある患者に対して使用する場合には特に注意が必要であるとの記載があります。また、本薬剤はジェネリック薬も多数販売されておりますので、その点についても各施設でご確認ください。メーカーホームページにて、本件の「適正使用のお願い」の全文（PDF）が公開されておりますので、下記アドレスよりご参照ください。



第一三共株式会社ホームページ

<http://www.daiichisankyo.co.jp/>

トップページより「医療関係者向けサイト」バナーをクリック



「非会員 あなたは医療者ですか？」に回答



ページ中段 「使用上の注意」欄の「MoreInfo」をクリック



「2012年9月 適正使用のお願い トランサミン注 大量投与時の痙攣発現について」の「PDF」をクリックで閲覧可能